

キューバ、ブラジル向け医療サービス輸出停止の真相

I. はじめに

11月14日、キューバ政府は、ブラジル向け医療サービス輸出（当時83,698人の医師が赴任）協定の停止をブラジル政府に通告しました。この問題は、一般の報道では、次のように説明されています。

- キューバ保健省は14日、ブラジルへの医師派遣を打ち切ると発表した。ブラジルのボルソナロ次期大統領が派遣プログラムをめぐり、キューバ政府を批判したことを受けた措置（18.11.15 時事）。
- ブラジルのボルソナロ時期大統領の批判を受けて、キューバ政府は両国の協力協定を中断した（18.11.23 Reuters）。
- マイス・メジコス＝キューバが突如、撤退宣言＝無医の自治体続出は不可避（18.11.17 ブラジル・ニッケイ新聞）。

しかし、こうしたブラジルとキューバ政府の批判合戦により、キューバ政府が医師派遣の協定を中断したと理解するのは、皮相な見方です。問題は、もっと深いところにあります。歴史的経過をたどってみましょう。

II. 医師増員計画どこから出たか

このキューバ人医師をブラジルに派遣する協定は、2013年8月ブラジルのジルマ・ルセフ



ルセフ大統領とキューバ人医師

政権が、医師18,000人増員計画（マイス・メジコス＝もっと医師を）を立ち上げたとき、貧困地区やへき地にはブラジル人医師が勤務したから、外国人医師、特にキューバ人医師の勤務を要望し、キューバ政府と締結したものです。

協定は、世界保健機構（WHO）及び米州保健機構（OPS）を仲介して行われ、ブラジル政府は、キューバ政府の医療サービス輸出としてWHOを通じて医師一人当たり月額10,000レアル（約4,200ドル、一日約140ドル、その後150ドルに増額）支払うこと、キューバ政府は、4,000人の医師を（その後11,456人に増員）派遣することに同意しました。この時、ブラジル人の医師数は、人口1,000人あたり1.8人、当時の医師養成計画では2035年に2.7人（2017年度実績でも2.0人）という、ラテンアメリカでの第一の経済大国にもかかわらず、医療サービスが著しく低い国でした。一方キューバでは74.6人で、外貨獲得のために、ベネズエラをはじめ世界に医療サービス輸出を推進しているところでした。

このキューバへの支払いは、キューバ人医師個人への給料という性格でなく、キューバへの医療サービス輸出への対価として WHO に支払われたものです。また、両国の間に医師免許の相互承認協定がないことから、WHO を通じて特例としてキューバ人派遣医師がブラジルで医療活動を行うことが許可されました。

III. テーメル大統領の就任と「もっと医師を」計画の減速

ところが、2016年5月、ブラジル労働党 (PT) のルセル大統領に対する弾劾裁判所設置が上院に設置され、中道右派のブラジル民主運動党 (PMDB) のテーメル副大統領が大統領代行となり、さらに8月上院による罷免投票の結果、罷免が議決されて、ルセフ大統領職は、失職し、テーメルが大統領に就任しました。キューバ政府は、ルセフ大統領との連帯を表明し、これを議会クーデターと批判しました。ルーラ大統領に対する汚職疑惑事件、ルセフ大統領に対する予算不正流用疑惑は、左派の PT 政権を打倒しようという思惑で、米国政府と、ブラジルの大手資本、右派勢力、寡頭制支配勢力が推進したものとされています。



ルセフ内閣には女性閣僚は7名いたが

すると、テーメル大統領は、同年9月キューバ医師を11,400人から7,400人に削減するように提案しました。しかし、キューバ側は、医師の安全が保障されるなら継続するとして、協定は2019年まで延長されました。引き続き、12月ブラジル国立経済社会開発銀行 (El Banco Nacional de Desenvolvimento Econômico e Social de Brasil) は、ラテンアメリカ向け16件の融資36億ドル (その中にキューバの国家的プロジェクト、マリエル港の8億3200万ドル建設計画を含む) を中止しました。背景には、外貨事情に苦しむキューバへのサービス輸出収入を削減するという目論見があったものと思われます。そこで、2017年1月ラウル議長は、ラテンアメリカ・カリブ海共同体 (CELAC) の首脳会議で、テーメル大統領を批判し、両国の関係はすっかり冷却したものとなりました。こうした文脈の中で、ボルソナーロ氏は、対キューバで強硬発言を行います。ボルソナーロ氏の暴言は、突然現れたのではないのです。

IV. キューバの経済の困難とそれにつけるボルソナーロ

今年に入り、キューバ政府は、外貨事情が悪化し、ブラジルへの1億1,000万ドルの債務の支払いが滞るようになりました。すると9月テーメル政権は、これを支払わなければ、医療サービス分3億5,700万ドルの支払いを延期すると発表しました。これに対し、キューバ政府はブラジルに1億1,000万ドルの支払い繰り延べ (2018年7月から2019年12月までの分) を要請しました。この件は、現在両政府で交渉中となっています。

昨年末、ボルソナーロ氏は、「ブラジルの医師はほおっておかれているのに、十分な能力が

確認されてもいないキューバ人医師を維持し、キューバの独裁政治にわれわれの金が与えられている (18.10.19 Nuevo Geraldo)」と、「もっと医師を」政策を批判しました。

2018 年になると、ブラジル大統領選挙キャンペーン中、キューバ政府は、世論調査でトップを走るルーラ元大統領を支持しましたが、ボルソナーロ氏は、一次投票で首位を獲得した後、「今後はラテンアメリカの社会主義、共産主義、極左に媚びを売ることにはしない」と暗にキューバ、ベネズエラとの関係の決別を示唆しました (18.10.28 Página 12)。また、「当選すれば、14,000 人のキューバ人医師は帰還させる」と述べました (18.10.19 CiberCuba)

さらにボルソナーロ氏は、11 月決戦投票で勝利した後、「キューバの独裁者が医師の給料の



75%を搾取しており、家族の同伴を許していない点は人権侵害に当たる、自国民をこのように扱う国と外交関係を維持できるだろうか」、「キューバ派遣医師には、キューバが全額本人に支払うこと、ブラジルに家族と一緒に居住すること、ブラジルの医師の国家試験を受けることを条件に維持する」と表明しました。しかし、ボル

ソナーロ氏が、国が給料の 75%を搾取しているというのは、一面的な見方です。キューバ人の医師の養成には、基本的に医療・教育を無料とし、その他の文化・スポーツ、配給食糧などの国の補助金がでているというキューバ独自の経済制度のなかで行われています。実質的な国民の税負担は、北欧諸国の納税負担をやや上回る程度です。それを無視して、ブラジルで勤務する医師に 100%給料を支払えば、キューバの医療制度を持続することをできなくするものです。その矛盾に気づかずに搾取、搾取と主張するのは的はずれです。また派遣された医師は、普通の途上国の派遣労働で、家族を同伴するものでなく、人権侵害という批判は当たりません。

キューバ政府は、「次期大統領と意見が違うけど、外交関係の維持を希望する」と、冷静に回答しました。しかし、ボルソナーロ氏の発言はその後も続き、「キューバ人医師は、ブラジルが払っている給料の 75%を国に取られて奴隷状態で働かされている。派遣されているキューバ人の医師の水準は低く、ブラジルの国家試験を受けなければならない、キューバ人医師が任務を離脱し、ブラジルに移住することを希望するなら、それを受け入れる」と批判し、2016 年 9 月にテメル政権との間に再確認された条件の修正を提案しました。



農村で勤務する女医、派遣医師の 60%は、女医

V. キューバ政府、尊厳を守り苦渋の決断

11月14日、キューバ政府は、ボルソナーロ氏の修正提案を受け入れることはできず、当初の両国の協力精神は失われたとして、医療サービス協定の破棄を通告しました。ブラジル向けの医療サービス輸出の停止は、キューバにとって二つの意味で苦渋の決断でした。一つは、それまでキューバ人医師は、地域に深く根差して医療活動を行ってきました。これまでに累計2万人の医師が、3,600の基礎行政区で、累計1億1,300万人の患者を診察しました。その内700の基礎行政区は、それまで医師がいない地区でした（18.11.14 Granma）。帰国することにより、担当住民のケアができなくなることは、それぞれの医師にとって大きな精神的苦痛です。

もう一つは、キューバ経済に関わることです。キューバの年間輸出総額は140億ドルで、ブラジル向け医療サービス輸出は、年間約4億ドルの収入です。これは、キューバの輸出総額の3%に当たります。この医療サービス輸出4億ドルが無くなることは、これに匹敵する輸出品目が簡単には見当たらず、キューバ経済にとって少なからずの打撃となります。一方、ブラジルにとっては、輸入総額1,575億ドルの0.3%にしかならず、キューバからの医療サービス輸入の停止は、外貨節約の意味をもちません。つまり、キューバ経済を困窮させようという目的であることはあきらかでした。キューバ政府にとっては、大国ブラジルのボルソナーロ氏の再三にわたる侮辱と脅迫に対して、小国ではあるが、国としての尊厳を貫いた停止通告でした。



ブラジルの態度を批判するポルトガル保健相

一方、米国のブライアー国務省米州担当次官補は、前述のボルソナーロ氏の発言を直ちに正しいと評価しました。ボルソナーロ氏の行動が、米国と連携したものであることをうかがわせるものでした（18.11.16 Telesur）。

11月22日より、8,3698人の医師の帰国作業が開始され、連日キューバに帰国しています。帰国した医師たちは、ブラジルに残した患者のことを考えると胸が痛むと一様に語っています。

VI. おわりに

現在、人口2億1,000万人のブラジルに、医師はわずか49万人しかいません。人口1,000人当たりの医師の数は、2.0人で、ラテンアメリカ随一の経済大国であるのに、地域の平均水準以下です。テメル大統領、ボルソナーロ次期大統領には、対キューバの憎悪があるだけで、ブラジル国民の医療の保障という観念が欠けています。医療政策は、政争の道具にしてはならず、人道主義に基づき行われなければなりません。

(2018年11月26日 新藤通弘)